

令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第11号

令和3(2021)年2月19日
栃木県農業環境指導センター

果菜類・花き類病害虫の今後の発生増加に注意しましょう。

予想期間 2月下旬～3月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比14%：ほ場率、平年比0%：株率)。(－)
・向こう1か月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・老化葉などを除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・予防を主体にフルピカフロアブル等を散布する。曇雨天時に防除する場合には、くん煙剤を使用する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比114%：ほ場率、平年比91%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(－～±)
- (3) 対 策 ・発生が見られる場合は、ウララDF等を散布する。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比143%：ほ場率、平年比91%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(－～±)
- (3) 対 策 ・低密度のうちにカウンター乳剤等のIGR剤を散布する。
・被害が大きくなるおそれがある場合には、ディアナSC等を散布する。本剤はカブリダニ等の天敵に影響があるので、影響日数を考慮して散布する。
- (4) 備 考 ・秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設は、発生に注意する。
・ [防除のポイントNo.19](#)、[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比71%：ほ場率、平年比66%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(－～±)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、低密度のうちに防除を行う。
・抵抗性の発達を抑制するため、気門封鎖剤や天敵製剤を積極的に活用する。また、化学農薬を使用する場合はローテーション散布する。
・気門封鎖剤は5日程度の間隔をおき、複数回散布すると効果が高い。
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布すると効果的である。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比47%：ほ場率、平年比55%：株率)。(－)
・向こう1か月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。多湿時は循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。
・発病葉、発病果や花弁は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・発生状況に応じてピクシオDF等を葉裏にもよくかかるように散布する。

・微生物防除剤（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に使用する。また、低温条件では効果が出にくいので、施設内温度は10℃以上を確保する。

(4) 備考 ・[薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト 葉かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量が多い（平年比 301%：ほ場率、平年比 150%：株率）。（+）
 ・向こう1か月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない見込み。（+）
- (3) 対策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。多湿時は循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。
 ・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
 ・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
 ・発生が拡大する前にアフェットフロアブル等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備考 ・抵抗性品種を侵す葉かび病菌レースが確認されているため、抵抗性品種の栽培ほ場でも発生に注意する。
 ・[葉かび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 きゅうり コナジラミ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量が多い（平年比 427%：ほ場率、平年比 200%：株率）。（+）
 ・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。（－～±）
- (3) 対策 ・密度が高くなると防除が困難になるので、ほ場内に黄色粘着板を設置する等、早期発見に努め、早期防除を行う。
 ・発生が見られたらトランスフォームフロアブル等を散布する。

8 なら アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量が多い。（+）
 ・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。（－～±）
- (3) 対策 ・雑草はアザミウマ類の増殖場所となるので、ハウス内外の除草を行う。
 ・早期発見に努め、密度の低い時点でディアナSC等を散布する。

9 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い（平年比 136%：ほ場率、平年比 212%：株率）。（+）
 ・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。（－～±）
- (3) 対策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 ・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やコロマイト水和剤等を散布する。
- (4) 備考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

10 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	うどんこ病	少	やや少	きゅうり	うどんこ病	やや少	平年並
トマト	コナジラミ類	やや少	やや少		褐斑病	平年並	やや多
きゅうり	べと病	やや多	多		アブラムシ類	平年並	平年並

次のページへ続く

○施設野菜類の微小害虫を発生初期に防除しましょう。

施設野菜のハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類等の微小害虫は、気温の上昇に伴い急増します。ほ場をこまめに観察し、発生初期の防除を心掛けましょう。

○病虫害防除にあたっては、RACコードを参考に、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

「ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安(①、②、③)」を栃木県農作物等病虫害雑草防除指針の参考資料に掲載中。<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

○水稻の種子伝染性病害の発生を防止しましょう。

まもなく水稻の育苗の時期となります。種子消毒を適切に行い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材・器具もしっかり消毒することで、苗立枯病や種子伝染性病害の発生を防止しましょう。さらに近年、特に育苗期間中の高温が原因と思われる病害(もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など)の発生が多くなっていますので、育苗ハウスなどの適正な温湿度管理にも留意しましょう。

1か月気象予報(予報期間2月20日から3月19日 2月18日気象庁発表)

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率70%です。3~4週目は、高い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	10%	20%	70%
降水量	20%	40%	40%
日照時間	40%	30%	30%

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](https://twitter.com/tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。